

平成22年度 学校関係者評価報告

1 実施日時 平成22年12月2日（木） 17:00～

2 参加者

学校側	坂柳 恒夫 校長	白井 康司 副校長	
	山田 昌弘 教頭	稲留 雄一 主幹教諭	
	山本 一之 校務主任		
学校関係者	地域代表	三嶋 勉 様	深津 浩 様
		奥瀬 勇作 様	牧野 典子 様
	父母教師会長	下村 孝爾 様	

3 協議内容

改善策①

「スクールカウンセラーやアイリスパートナーの運用を充実させる。」

- ・通信や掲示を使って、アイリスパートナーの活動を全校により知ってもらえるようにする。
- ・担任とスクールカウンセラー、アイリスパートナーとの連携を充実させ、情報を共有しながら、子ども理解を深める時間を確保する。
- ・大学の関係機関とも連携し、特別支援教育推進委員会において、それぞれの活動を振り返りながら、より効果的な運用を協議し実践する。

改善策②

「基礎的な知識や技能の習得とコンピュータの活用についての取組を充実させる。」

- ・あおいタイムの充実及び、授業でも基礎的な知識・技能を定着させる時間を確保するとともに、その成果を児童自身が確認できる機会を設ける。
- ・本校の研究成果を披露する授業のみならず、あおいタイムや基礎的な知識・技能を定着させる授業も学校公開日等で公開する。
- ・全国学力状況調査で良い結果が出ていることを保護者会の場で説明する。
- ・自分の必要な情報を効率的に得たり、共有したり、発信したりするといった情報教育の考え方を教師が共通理解し、毎日の授業と結びつけて指導にあたる。
- ・授業参観等でコンピュータを活用する授業を公開する。

改善策③

「子どもたちの基本的な生活習慣を育む。」

- ・学級や児童会活動で、基本的な生活習慣や規範意識について考える場をもち、その意味や必要性に対する意識を子どものなかに育てていく。
- ・帰りの会などで、一日の行動を振り返る場をもち、一人一人がめあてをもって行動できるようにする。
- ・PTAと協力しながら、生活習慣や規範意識について啓発活動を行うことと、清掃

<p>活動に積極的に取り組む態度を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登下校指導を行い，あいさつの励行や登下校時におけるバスマナーなど，子どもたちの生活のなかでルールやマナーについて考える機会をとらえ，学級活動や通学班会の場で継続的に指導していく。 	
<p>改善策④ 「子どもたちの安全のために，学校設備や教室環境を整える。」</p>	
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画委員会や職員会議の場で，学校設備や教室環境の点検を行い，優先順位を付け，大学に要望していく。 ・ 学期末に行う学校設備等の環境点検を念入りに行う。

4 学校関係者評価を受け手の具体的な方策

改善策①について

- ・ 教室に入りにくかった子どもが，現在では教室で生き生きと活動できている。今後もスクールカウンセラー，アイリスパートナーの運用の充実を図っていききたい。また，大学との連携もさらに充実させ，よりきめの細かい対応をしていく。
- ・ 特別支援教育推進委員会の内容を充実させるとともに，全教師への情報や対応の周知を今まで以上に図り，学校全体で一人一人の子どもを見守り育てることを一層心がける（帰りの打ち合わせも含めた計画的な情報交換の場の選定）。

改善策②について

- ・ 全国学力・学習状況調査の結果からも，基礎学力向上の成果が見られるので，今後一層あおいタイムの充実を図るとともに，その成果を家庭にも通知するなど，家庭との連携も視野において内容の充実を図っていく。
- ・ 情報教育の一環として，コンピュータを活用した授業を今後もめざす一方で，コンピュータ以外の情報源（図書，聞き取りなど）を活用している現在の学習をさらに充実させる。そうすることで，情報の収集，管理，発信といった力を思考力・判断力・表現力の育成と関連させ，育んでいく。

改善策③について

- ・ 家庭で指導していただく内容もあるので，今後一層家庭との連携を大切に，学校と家庭が一体となって子どもたちを育てていく体制を整える。
- ・ 特に掃除や食事のマナーといった内容については，家庭に協力いただく。

改善策④

- ・ 現在中庭屋根付き渡り廊下（アーケード化）が完成した。さらに教室の空調設備についても工事が進んでいる。今後は一棟のガラスを強化ガラスにしたりサッシにすることで子どもたちの安全を確保していきたい。その他にも新館渡り出入り口を開き戸にするなど，大学へ要望をしている。